



New

タキイ交配

ニンジン

「冬ちあき」

ふゆ

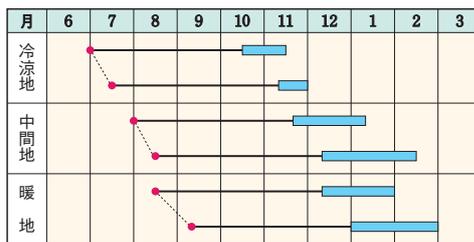
そろいよく秀品率・耐寒性にすぐれる秋冬どり種！



ポイント

- ✓ 形状のまとまりがよい
中早生種
- ✓ 初期生育が旺盛で
作りやすい
- ✓ 機械化に適する
- ✓ 根色濃く、肌がなめらかで食味良好

「冬ちあき」栽培メモ		
最適播種期	冷涼地	7月上中旬
	中間地	8月上中旬
	暖地	8月中旬～9月上旬
肥料の目安 (10a当たり)	成分量 N:P:K=10~12:15:10kg ※元肥6割+追肥4割を目安、圃場の肥沃度で調整する	
播種基準	中間地：4～5万株 暖地：5.5～6.5万株/10a当たり	
栽培ポイント	黒葉枯病・斑点細菌病の予防的防除、土寄せの励行	



ニンジンには播種から収穫までの栽培期間が長く、生育環境の影響を受けやすい品目です。特に露地での栽培となる夏まき秋冬どりは、近年の気候変動により、猛暑や豪雨、台風の襲来、干ばつ、暖冬、寒波などさまざまな環境ストレスが増加し、作柄が不安定なっています。

一方で、生産の現場では作付け規模の拡大が進み、播種から栽培管理、収穫出荷まで一連の作業の大規模な機械化が進んでいます。この状況にタキイでは幅広い環境に適應できる生育の安定性と、機械化への適應力を高いレベルで併せもつ品種を目標に育成を行ってきました。

「TCH1799」として数年間にわたり関東や九州の主要な産地で幅広く試験栽培を行った結果、期待した育種目標を達成し、有望と認められたため「冬ちあき」と命名し、今回発表することとなりました。



タキイ研究農場
かどた のぶひこ
門田 伸彦

品種特性

① 形状のまとまりがよい中早生種

「冬ちあき」は尻づまりがよく、肥大の安定した中早生種です。暑さ寒さに強く、幅広い土壌に適応し、形状の乱れが少なく、適期収穫でM/L規格によくそろい、秀品率が高い品種です。

② 初期生育が旺盛で作りやすい

夏まき栽培は播種時期が高温条件となりますが、発芽ぞろいがよく、初期生育が旺盛なため欠株になりにくく、栽培安定性にすぐれた作りやすい品種です。

③ 機械化に適する

生育初期から草姿立性で中耕や土寄せ、薬剤散布など栽培管理が行いやすい品種です。また、収穫時期に葉が伸び過ぎず、葉軸はしっかりしており、耐寒性にすぐれるためニンジン収穫機を用いた機械収穫に適しています。さらに、肉質が緻密で割れにくく、収穫時や洗浄および選別時のひび割れの発生が少ないため歩どまりも良好です。

④ 根色濃く、肌がなめらかで食味良好

肌がなめらかでつやがあり、根色は表皮から芯まできれいな赤みのある鮮紅色です。みずみずしい食感で臭みが少ないため、食味にすぐれます。

根形はやや肩張りで、尻部の肉付きがよい円筒形状のため調理しやすく、幅広い用途の業務加工に適した商品性の高い品種です。

栽培ポイント

① 排水良好で有機質に富んだ土づくり

「冬ちあき」は肥沃で耕土が深く、通気性・排水性・保水性のよい畑での栽培に適します。排水のよい畑を選定しましょう。地下水位が高く水はけの悪い畑では短根や又根、しみ腐病などが発生するおそれがあるため、畑に水がたまらないよう明渠の整備や畝を高めにするなど排水性の向上に努めましょう。

通気性や保水性、保肥力など土壌の物理性向上には「ネグサレタイジ」（えん麦野生種）などの緑肥の栽培を推奨します。堆肥を施用する場合は完熟したものを利用し、量が多くならないように注意しながら、前作の栽培時やニンジン播種の1〜2カ月以上前に施用します。

また、土質改善にむけた腐植酸の補充には「腐植チャージ」がおすすです。排水がよく有機質に富んだ土づくりが豊作への第一歩です。

② 「均一な発芽」と「スムーズな初期生育」

良品多収の最重要ポイントは、発芽をそろえ、初期の生育を順調に進めることです。ニンジンの種子は吸水力が弱く、発芽に多くの水分を必要とするため、発芽をそろえるよう十分な灌水管理を行いましょう。発芽後も過度に乾燥すると又根や裂根が増加するため、土壌の水分状

態に留意し、適宜灌水を行います。

「冬ちあき」の初期生育が旺盛という特長を最大限に生かせるように、灌水管理を確実にし、均一な発芽とスムーズな初期生育を目指しましょう。

③ 適期播種と適期収穫、病害虫の防除

「冬ちあき」は肩部の高温障害（エクボ症、肩こけ）に比較的強い品種ですが、無理な早まきは高温障害や黒葉枯病など病害発生リスクが増加します。一方で、遅まきは肥大不足や着色不良の要因となるため、栽培地域に即した適期播種を心掛けましょう。害虫や葉枯れ病害（黒葉枯病、斑点病、斑点細菌病など）は一度発生すると蔓延しやすく収量に大きく影響します。

発生前からの予防的防除を基本とし、播種後1カ月あたりから定期的に登録薬剤の散布を行うと効果的です。また、収穫遅れによる老化は、しみ症（しみ腐病、根腐病、乾腐病など）の発生増加につながるため適期収穫を心掛けましょう。

④ 追肥型の肥培管理と土寄せの励行

施肥量は「向陽二号」よりも1〜2割程度減（10a当たりチッソ成分で10kg程度）を基準とし、前作の残肥や畑の保肥力を考慮して施肥量を決定します。生育後半まで葉を健全に保つために、追肥型の肥

培管理が適しています。

元肥として全体の6〜7割を施用し、残りを追肥とするとよいでしょう。生育途中の肥料切れは、裂根や葉の黄化、地上部病害の発生につながるため注意しましょう。また、ニンジンの生育にはリン酸の肥効が重要といわれています。元肥としてリン酸を施用するとともに、垂リン酸を含む葉面散布剤（「ホスベジ10」がおすすめ）を生育の中期から後期にかけて散布すると発根が促され地上部が健全となり、安定生産・良品多収へとつながります。

降雨により土壌がかたくなった場合は畝間や条間の中耕を行い、土壌の通気性を改善します（湿気が多く土がしまりやすい畑では土壌改善に「オキソパワー5」がおすすです）。

青首防止のため、最終間引き後に株元へ土寄せを行います。降霜の厳しい地域や厳寒期の収穫では、首部の凍害防止のため12月に再度、土寄せを行います。



↑「冬ちあき」は肌がなめらかでつやがあり、根色はきれいな鮮紅色。